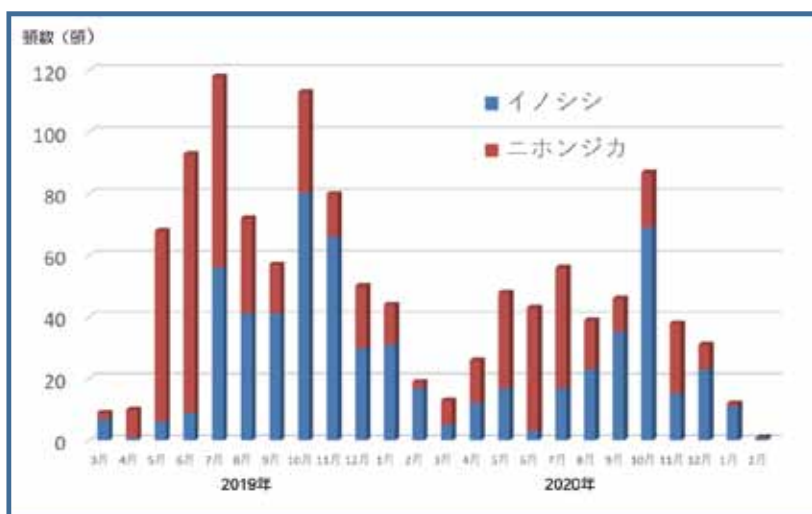


4-3 効果的かつ効率的な柵とわな設置・管理技術の開発

研究機関名 農研機構（畜産研）

要約

- 適切に設置された防護柵の効果は維持管理等により効果が継続する
- 小規模な捕獲や単発的な捕獲だけでは出没状況等に変化をもたらすことは困難
- そのため、柵と連動した捕獲や集中的な捕獲の実施が必要
- 経年に伴い、柵設置時とはことなる動物種が出没する場合があります、柵の機能向上などの 対応が求められる



柵設置後の月別のイノシシ、ニホンジカの出没状況

柵の設置の効果により周辺でのイノシシ、シカの出没に現状傾向が確認された。

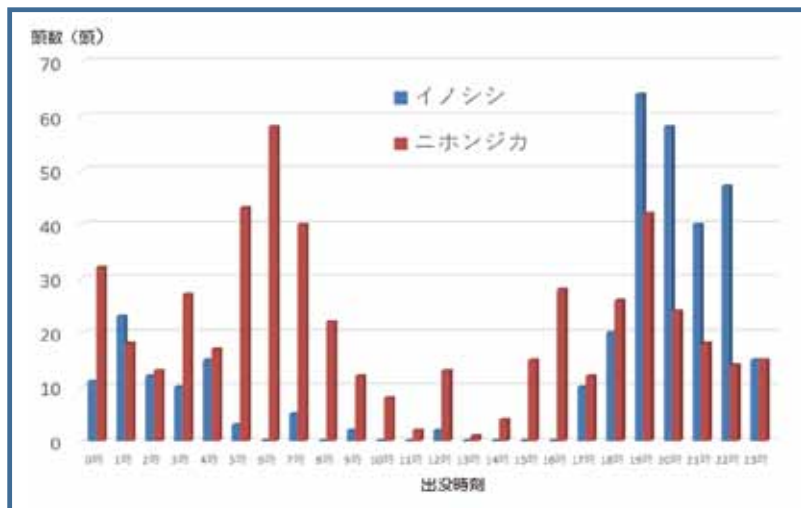
また、種によっては出没時期が異なるため、捕獲時期を県とする必要がある。

ただし、季節変動や年変動の影響を受ける可能性がある。

イノシシ、ニホンジカの時間別の出没状況

柵の設置と維持管理などの人の活動により、ある程度、柵周辺での警戒心が維持されている可能性が示唆された。

また、両種とも薄明薄暮の頃に出没することが多く、柵周辺ではわなによる捕獲が有効と考えられる。



まとめ

研究開発成果による効果

柵の継続的な管理を実施し、連動して周辺でわな捕獲を行うことで、効果的かつ効率的にイノシシやシカの被害軽減を図ることが見込まれる。

なお、本研究は対馬市、長崎県対馬振興局、長崎県農山村対策課の協力のもと、長崎県農林技術開発センターが収集したデータの再分析等と現地踏査により実施しています